



本学の平成23年度入学式は4月1日、日進キャンパスにおいて大学ならびに大学院の入学式、4月5日に短期大学部、技工専門学校の入學式が挙行された。例年ならばキャンパス内の桜も満開で新入生を迎える年も、例年になく厳しい寒さでつばみではあったが、好天に恵まれ行われた。

大学8学部17学科で2612名、薬学研究科を除く大学院8研究科で158名、短期大学部112名の併せて2882名の新生を迎え、大学での入学式は第一部として、9時15分から心身科学部・法学部・総合政策学部・薬学部・歯学部・大学院。第二部として、11時15分から文学部・商学部・経営学部・留学生別科の入学式が日進キャンパス・百周年記念講堂にて行われた。今年の入学式は、3月11日

平成23年度

入学式



第175号

編集発行

愛知学院大学
事務局 庶務課

☎ 470-0195

愛知県日進市岩崎町
阿良池12

電話 ☎ (0561) 73-1111(代)

式終了後は学部学科毎に教室に分かれ、教員との対面式や、大学生の証である学生証の授受など、大学生としての最初の1日を過ごした。

また、短期大学部・歯科技工専門学校の入學式は4月5日、楠元キャンパス百周年記念講堂にて行われた。

様々な想いで本学の正門アーチをくぐってきた新入生諸君に、豊かで実りある学生生活を送られることを願う。

に発生した東日本大震災で犠牲に遭われた方々に哀悼の意を表し、開式に先立ち黙祷を捧げた。その後、大野榮人学長の式辞に続き、小出忠孝学院長、青山裕後援会会長らが祝辞を述べ新入生を祝福した。新入生らは幾分緊張した面持ちで、熱心に聴き入っていた。大野学長と小出学院長は新入生に対し、今社会で大きな変動が起きていることを事例として挙げながら、このような時代に大学生として入学した新入生がしっかりとした目的意識と自己確立が求められると強調され、社会で活躍できる有為な人材となるため、勉学に課外活動に一層励み、充実した学生生活を送るよう要望された。

**大学入試センター運営審議会委員に
小出学院長再々任される**

大学入試センターの重要事項を審議する運営審議会の委員に、小出学院長が学識経験者として再々任された。国公立大学の他に殆どの私立大が参入し、大学入試の主軸となったセンター入試の運営は責任重大で、文科省の大学入試改善会議を永年努めた学院長の活躍が期待される。

入学式辞(抜粋)

自分を磨き続ける

学生生活を

学長 大野 榮人

新入生の皆様、ご来臨のご父母の皆様、ご入学を衷心よりお慶び申し上げます。

1万3千余名の受験生の中からめでたく合格され、本学を選んで入学して頂きましたことを、先ずもってお礼申し上げます。

新入生の皆様、これから大学生活を始められるに当たって、先ず皆様にお願ひしたいことがあります。それは、「大学4年間をいかに過ごし、将来何を自分の職業とするのか」という明確な目標を持つて頂きたいということです。

皆様の入学されました愛知学院大学は、仏教の中の禅の教えを母体とした曹洞宗教団が設立した仏教系の大学です。こうした式典は仏式において行われますので、ご承知おき頂きたいと存じます。

一、大学生生活始め



物を読む習慣を身につけて頂きたいと存じます。

(2) 全学対象の様々な資格検定講座・教職・図書館司書・図書館司書教諭をはじめ、各学部学科で開講されている様々な資格取得科目があります。

1・3年の在学中に最低一つの資格取得に挑戦して頂き、実際に資格を取得してもらいたい。資格取得に挑戦することによって、自らの力で人生を切り開く原動力を身につけてもらいたい。また、キャリア教育は1年次から始まり、その中で、諸種の講座に参加して下さい。常にキャリアセンターに足を運ぶ習慣を身につけて頂きたいと存じます。

(3) 大学4年間に自分は何を研究するのか、早急に「研究目標」を設定して、日々その目標を達成するための努力をして頂きたい。大学は教育の場であり、研究の場所であることとを自覚して頂きたい。

(4) 授業は教員の話を一方向的に聞くのではなく、積極的に質問をして教員を困らせ、その授業に参加して頂きたい。

(5) 卒業後、自分は何を職業とするのか。その目的を達成するために、大学4年間に何をやらねばよいのか。具体的に自分の人生の設計図を描いて、日々努力に努力を重ねて頂きたいと存じます。

大学4年間をいかに過ごすかによって、私共の人生は決定するといっても過言ではありません。日々の努力の積み重ねがあつてこそ、大きな目標の達成が可能となります。

二、自己の能力の開発を

一人ひとりの人間には、本来無限の能力と可能性が与えられております。大学の教育は、学生の一人ひとりが持っている十全の能力を引き出すことにあります。教員の一人ひとりは本気で教育に取り組

んでまいります。

特に新入生の皆様には教養課程及び専門課程におきまして、それぞれ初年次教育が実施されます。学問する基礎は、「読み・書き・ソロバン」と言われますように、読解力や文章力を身につけてもらい、自立した学問・研究の方法を学んでもらい、自立した自己を確立して頂くことを願っております。自ら学問する喜びを見出してもらい、問題意識を持って自ら考える力を身につけてもらいたい。

折角大学に入学されたのに授業は欠席し、学ぶことや書物を読むことを忘れ、考えることを怠り、安易に楽な道を選択することは厳しく慎んでもらいたい。自分を厳しく律することを願ひたい。

三、本学の教育理念

本学の教育理念は建学の精神である「行学一体・報恩感謝」です。あくまでも大学は学問・研究する場所であるという自覚を持ってもらい、学問・研究を通して正しいことを学び、学んだ正しいことを実際の生活において実践していくというのが「行学一体」です。

私という一人の人間が生きるためには自然現象の力、経済的支援をして頂く両親の支えなど、様々な恩恵を受けています。私を生かすために、私の内臓諸器官は一日も休むことなく、私を生かし続けてもらっており、感謝の心で生きることが「報恩感謝」です。

この建学の精神を具現するため、「二祖三弘」(4月8日、9月29日、12月8日、2月15日)の仏教行事が本学棟3階大会議室で行われますので参加して下さい。

8月初旬に1年生を対象に福井県にありまます曹洞宗の大

本山永平寺での参拝が1泊2日実施されます。積極的に参加して下さい。修行は厳しいですが、生涯の宝物を手にすることが出来ます。7号館南側にあります坐禅堂で毎月第2火曜日の午後5時から「火曜参禅会」が行われます。

これらの行事に積極的に参加して頂き、自らの身と心を磨き続けて、自己の人格形成を確立して頂くことを願っております。

四、決して一人で悩まない

学生生活を始めるに当たって、未知なことばかりで多くの不安を抱えておられることでしょう。学生の皆様の学習・生活などあらゆる相談に対応するため、全教員がオフィスアワーを設け、健康管理棟1階は保健センターが、2階には学生相談センターがあり、いつでも相談に応じています。きめの細かい支援体制を構築しておりますので、決して一人で悩まないで積極的に各施設や制度を利用して頂きたいと存じます。

五、やる気と目的意識を

学生さんが「本物の人間」になつてもらうために、私も教員は「本物の教育」をしなければならぬと考えております。そのために厳しい教育環境を用意させてもらいます。努力しなくては単位を取得できず、簡単に卒業できない大学をめざしております。

皆様もご自分の秘められた無限の能力に挑戦し、「やる気」と「目的意識」をもって常に努力してもらい、自分を磨き続けて頂きたい。卒業される時は豊かな教養と人間性を身につけられ、自ら誇れる「学士力」を身に付けた人格に変わ身させて頂きたい。そうすれば必ず可能性に満ちた未来が開かれるであろうことを約束させていただきます。

五、やる気と目的意識を

学生さんが「本物の人間」になつてもらうために、私も教員は「本物の教育」をし

五、やる気と目的意識を

学生さんが「本物の人間」になつてもらうために、私も教員は「本物の教育」をし

就任あいさつ

文学研究科長



林 淳

大学院文学研究科に入された皆さん、おめでとうございます。充実した大学院生活を送られることを願っています。前期課程の人は、修士論文の作成をめざし、後期課程の人は、博士論文の提出をめざして、勉学に励んでいただきたいと思っています。文学研究科は四つの専攻に分かれています。文芸学という専攻をこえた大学院生同士が交流する組織があり、毎年文芸学論集を刊行しております。研究成果を世に問う良い機会ですので、積極的に利用することを期待しています。

人文学系の学問は、時間をかけて文献を読むようにならなければならない。調査で得た情報を整理できる技術を修得することを必要とします。一定水準の技術(わざ)を身につけて丹念にそれを磨くこと、これこそが人文学系の研究者がやらねばならないことです。専門家の間で通用する技術(わざ)を授け鍛え上げるのは、職人と言うと親方の役割ですが、大学で言う指導教授がそれにあたります。親方の工房で、親方が蓄積してきた技術(わざ)を身近に学び、腕を磨いて、世間に通用する作品(修士論文、博士論文のこと)を創りだすことをめざしてください。徒弟時代が、あなたの人生を鍛え、一回り大きな人間に育て上げることを信じております。

商学研究科長



後藤 俊明

本年4月より商学研究科長を拝命しました。教職員をはじめとする関係者の方々の協力を得て、微力ながらこの大役を果たしたいと思っております。商学研究科は、名古屋地区における伝統ある商学系大学院としてこれまで着実に教育成果を挙げてまいりました。およそ半世紀にわたる商学研究科の伝統と実績は、学会や実業界から高い評価を得るにいたっております。この伝統と実績を基盤としつつ、新たな構想のもとで現代の時代的要請に応える研究・教育を展開することが、商学研究科の目標にほかなりません。

近年における内外の経済環境の激変は、ビジネスをめぐる旧来の思想形式や行動様式の根本的な再構築を要請しています。そのためには、時代の表層的流れに惑わされることなく、先進的知的遺産を深く学び取り、日々生起する複雑な諸現象を冷静に分析し、それらをもとに未来に向けた指針を大胆に構想する知を磨かなければなりません。商学研究科はまさにそうした知の営みの場として、今後も専門的職業人と学問的研究者の養成という使命を果たしてまいります。そのための研究・教育環境を整備し、改善することこそが、私に課せられた責務と考えています。関係各位のご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

法学研究科長



梅川 正美

「ともに学びましょう」

法学研究科は1964年に創設されました。今年は2011年です。本研究科の歴史もやがて半世紀になります。この間、本研究科は多くの卒業生を送り出しました。卒業生の中には、研究者として活躍している人もいます。税理士などの専門職についている人もいます。一般企業で重要な役割を担っている人もいます。

このような卒業生にとつて、彼らが本研究科で従事した研究は貴重な財産になっていると思われまふ。大学院生は一方では「研究によって」職業につくことをめざします。しかし他方では「研究のために」研究します。研究それ自体に自己を一体化することによって、自分自身が変ります。どう変わるのか、それは誰にもわかりません。しかし、院生は、自己の深い思考とたゆみなき探求のち現れる世界において新しい自分を発見するでしょう。

研究は、人間のさまざまな活動の中でも、最も大きな喜びを得ることのできる活動の一つです。それは実際にやっていたか、かいたか、わかっていないか、研究の中で得た歓喜や確信は、その後の人生をささえるものになるでしょう。大学院の院生たちもまた研究の世界において、院生諸君とともにその泉の水をのむことを楽しみにしております。先生たちは、ミケランジェロが87歳になってもなお述べたように「まだ学んでいる」人たちです。学生諸君と一緒に勉強することをこころより期待しています。

歯学研究科長



田中 貴信

本年4月1日付にて、大学院歯学研究科長ならびに歯学部部長を仰せつかりました。これまで5年間と、比較的長期にわたって歯学部を統括してまいりました。今般は、より重責をこたえたいと思っております。関係者のご期待にお応えすることが出来まふかどうか、正直、不安な思いも少なくございませんが、お受けした以上、逃げるわけにはまいりません。

特に、歯学部、歯科医療業界が極めて厳しい時代を迎えた昨今、生半可な覚悟では難局を乗り越えることは不可能でありまふ。その場限りの小細工も通用しないことは明白であります。昨年には歯学部創設50年記念式典をめでたく迎えました。当時わが国の歯科医師不足に対応するために設置された初めての歯学部として、輝かしい歴史と伝統を誇り、育てるために、非才ながら老骨にムチ打ちつつ、必死に尽力していく覚悟であります。

具体的方策といたしましては、時代に即した幾多の制度変革が必要となるでしょう。現時点での心境といたしましては、主観的なリーダーシップを控え、これまでも各部署で懸命に努力して来られた多くの教職員に、恒常的に正確な情報を伝達することで、各自から存分に発揮していただいたエネルギーの全てを統合し、それを再建の動力源として行きたいと考えております。

「心身科学部」は、135年の歴史を持つ愛知学院大学で7番目に産まれた若い学部で、その名称は全国で唯一というユニークな学部です。最初に「心理学部」、続いて「健康科学部」が設置され、平成20年4月には私の所属する「健康栄養学部」が開校され、三学科体制となりました。

「心身科学部」は、からだの健康を心(精神)と身体(運動、栄養)の両面から「心身科学」という総合的枠組みの中で捉え、教育、研究することを目指しています。学部創設の当初からご尽力された佐藤祐造前学部長の後任として、学部長の職に就くことになりました。

東日本大震災という未曾有の大惨事から二ヶ月が過ぎ、精神面のケアやQOLの向上を目指した健康づくりや健全な食生活の指導など、「心身科学部」に大きな期待が向けられ、多くの卒業生を含めた学生諸君の活動の場は、益々拡大してゆくものと信じています。

本学部では、「臨床心理士」や「言語聴覚士」、「健康運動指導士」などの養成に加え、医療現場で活躍できる「管理栄養士」や「健康食品管理士」の養成を進めています。「心身科学部」の認知度を国内だけでなく国際的にも一層高めるために、教職員、学生の皆様と一体となって、努力する所存です。

商学部長



脇田 弘久

このたび商学部長を拝命いたしました。もとより浅学非才の身ではございますが、職責を全うすべく全力を尽くす覚悟です。

商学部長は昭和28年(1953年)の本大学設立時に創設された伝統ある学部です。その卒業生は、約4万2千名にのぼり、経済界をはじめ、教育、公務、文化、その他さまざまな分野で活躍しています。このような伝統と実績を持つ学部を代表する重責を痛感し、身の引き締まる思いです。

従来より、本学部は激変する経済社会、経営環境のなかで、時代の要請に迅速かつ柔軟に対応できる専門知識と問題解決能力を備えた人材の育成に取り組んできました。さらには、現代の経済社会を中心とする社会生活を他者に対する思いやりの心をもって営むことのできる人間、物事の真偽、正邪の判断のできる智慧をもった倫理性の高い生活者としての人材を育成することを究極的教育目標として参りました。他者への思いやり、共生の思想、真の優しさに満ちた人間としての価値を創造し高めること、現在、日本がおかれている状況において、今ほどその意味を問われている時はないと思っております。

こうした理念のもと、伝統に浸るだけではなく時代の流れを読み取りながら、教育・研究活動にまい進して参ります。

今後とも、皆様方からのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

法学部長



服部 朗

高木敬一教授の後を受け、法学部長を拝命しました。服部です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新入生オリエンテーションの挨拶で、私は、祝辞に代えて、四年間愛知学院大学でしっかりと勉強するよう新生に呼びかけました。

現在、わが国は戦後最大の危機にありまふ。東日本大震災では、かけがえのない多くの命が失われました。いままも避難所生活を余儀なくされている多くの人がいます。

リーマンショック以降の不況は、元気のよかつた東海地方にも深刻な影響をあたえています。いまは、就職氷河期と呼ばれた時をしのぐ就職難の時代です。

「ゆとり世代」と呼ばれる学生たちが、このような厳しい状況に遭遇したのは、時代のもたらした皮肉かもしれまふ。いまの社会情勢を思うとき、「社会はみなさんの力を必要としているのです。真の学力が問われているのですよ」と、声を大きくして呼びかけたいのです。

「成功」という二文字は、私たち法学部スタッフの努力とみなさん自身の努力とが重なり合うところに誕生します。愛知学院大学の人材と設備をフルに活用し、みなさんひとりひとりの夢を探し、それをかなえてください。私たち法学部スタッフは、全力でそれを支えていきます。

この度、平成23年4月より法学部長を勤めさせて頂くことになりました。先輩諸氏がこれまで築き上げてきた実績を礎として、本法学部が一層の発展を遂げるよう微力ながら全力を尽くす所存です。今後とも、ご協力とご支援をお願い申し上げます。

近年、医療の急速な進歩と医薬分業の定着により、薬剤師を取り巻く環境は大きく変化しています。これに対応すべく平成18年度から開始された6年制薬学教育は我が国の薬学史に残る大改革でありまふ。昨年度は、共用試験とそれに続く長期実務実習が行われました。本年度には6年制薬学部の最初の卒業生を世に送り出す段階です。

このような状況の下、高度な専門知識と技能を備え、医療人としての使命感や倫理観を持った薬剤師の養成が求められています。一方、教育内容は指数関数的に増加し、これを本質を理解せず無理解に丸投げし、理想とする薬学教育とは掛け離れた結果が待っています。基礎知識の習得と共に、事象に臨機応変に対応できる能力や必要な情報を正確に獲得する能力の養成も不可欠です。

最後に、薬学の根幹は、サイエンスです。研究活動を充分に行い、その成果を世の中に発信することが最も重要な使命であると考えまふ。

今後とも、皆様方からのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

今後とも、皆様方からのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

今後とも、皆様方からのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

東日本の被災者を悼む 本学が取り組むべき課題(1)

学長 大野 榮人

3月11日、東日本においてマグニチュード9.0という巨大地震が発生し、その後に押し寄せた大津波によって想像を絶する人命と家屋が失われ、今も多くの行方不明の方たちがおられますこと、心より哀悼の意を表します。

福島原発も被害を受け、放射能の恐怖にさらされています。今も余震が続き、被災者の方たちが困窮され、絶望的なお姿を目にして心が痛みます。

一、本学の学生も被災者に
本学の学生さんにも被災されました。宗教文化学科2年になる予定であった大萱生(おがゆ)寛海君は、春休暇で故郷の岩手県大槌町の寺に帰って震災に遭われ、高台の自坊に避難されていたのですが、津波を見て、石段を登ってくる人達を助けるために、石段を駆け降りられたのですが、津波の速度が速く、津波にさらわれ、今も行方不明になっておられます。

自らの命を犠牲にして、人の命を助けようとしたことが、新聞各社に大きく取り上げられました。大学としても顕彰させて頂きたいと考えております。

災害に遭われた学生さんに対して、大学として救済措置を講じていきたいと考えております。

大学では、キャンパス内で総合政策学部等の学生さんが自主的に、教職員や学生さんに義援金の協力を呼びかけて

頂いております。ボランティアにつきましても、当面、授業期間ですので差し控えて頂きたいと存じます。

二、学長になって思うこと
さて、学長に就任した4月1日に朝日新聞社から電話で硬式野球部の使途不明金の問題で取材に伺いたい、ということをお願いしたい、ということを発端に、キャリアセンターの職場環境の問題、ハラスメント問題などが起こり、硬式野球部問題調査委員会、ハラスメント対策委員会を立ち上げて調査して頂きました。各委員会の教職員の皆様には、長い期間にわたりまして聞き取り調査をして頂き、問題の解決をして頂きまして、厚くお礼を申し上げます。

私としては、従来、隠蔽されていた様々な問題が表面化したことで、民主化の第一歩を踏み出すことが出来たと考えております。

ただ、教育等の問題に何ら踏み込むことが出来なかったことを反省しております。これからは、本気で教育等の問題に取り組んでいかねばならないと考えております。

三、本学が取り組むべき課題
今日、大学を取り巻く環境は大きく変化しています。18歳人口は、平成4年に205万人が平成23年には120万人、平成43年には87万人に減少します。今年から平成30年までの7年間は120万人ですが、平成30年を境に年々減少し続けていきます。すでに全入時代に突入しており、

2011年本学経営学部卒業生 繋 弥生 さん

物流研究奨励賞を受賞

本学経営学部を2011年卒業した繋 弥生さんに、平成22年3月、日本物流学会より物流研究奨励賞が授与された。繋さんは「中小企業における効率的物流とデータキャリアの活用に関する研究」をテーマに論文を書き、物流研究奨励賞が授与された。

その努力を評し3月22日、大野学長より表彰状が手渡された。繋さんは現在、IT関係の3D CADを用いたデザイン制作の職についており、今後はさらに大学で研究したことを発展させ、実戦で生かされるまで続けて行きたいと抱負を述べていた。今後益々の繋さんの活躍が期待される。



東日本大震災に伴う 総合政策学部学生有志による 義援金募金活動

総合政策学部有志43名(代表メンバー 石渡綾香、伊藤水脈、小本真由美、奥村侑加、村井真由美)以上5名、総合政策学部4年)が集まり、東日本大震災に伴う義援金募金活動、入学式が行われた4月1日より日進キャンパス内で学生等に呼びかけし、この度、集まった義援金が大野学長に手渡された。

集まった義援金は総額で27万9822円にのぼり、5月20日(金)午後12時50分より日進キャンパス学長室にて、代表メンバーの一員である奥村



侑加さんから大野学長に手渡された。集まった義援金は本学を通じて日本赤十字社に送られ、被災した方々に役立てられる。

式には総合政策学部長、学生のゼミの担当である森総合政策学部教授も同席し、義援金を預かった大野学長からは、今回の震災でいち早く活動を実践された学生の皆さんに感謝の言葉をねぎらいの言葉がかけられた。

学生らの今後の企画として、音楽系文化部が集まりチャリティコンサートや、震災に



第104回歯科医師国家試験 合格率全国私大 第1位を達成(新卒者)

平成23年2月に実施された第104回歯科医師国家試験の合格者が厚生労働省より発表された。

本学歯学部からは新卒者114名が受験し、102名が見事合格を果たした。新卒者合格率は89.5%であり、全国の歯科系私立大学中第1位という結果を収めることができた。

合格した皆さんの今後の活躍を期待する。

平成22年度臨床心理士試験 合格者数19名で中部地区第1位

文部科学省認可の財団法人・日本臨床心理士資格認定協会が実施した、平成22年度臨床心理士資格審査の結果、本学は19名(H21年度修了生)という多数の合格者を出した。

この資格認定試験は、第一次試験(マークシートと小論文)が10月11日に東京ビッグサイトで開催され、本学のH21年度修了生24名を含む2607名が受験。また第二次試験(面接)が11月20日・11月22日の3日間に行われ、東京フオーラムで実施され、本学20名を含む1742名(残留率67%)が受験した。

その結果、最終合格者は1598名(合格率61.3%)であり、本学からは19名(合格率79.2%)が合格。19名の合格者数は、中部地区の臨床心理士を養成する指定大学院14校の中でトップの成績で、この成績は昨年に引き続き2年連続。

合格した皆さんの今後の活躍を期待する。

第13回 言語聴覚士国家試験 合格率95.7%を達成

平成23年2月19日に行われた第13回言語聴覚士国家試験の結果が厚生労働省より発表された。

本学からは心身科学部の心理学科・健康科学部の卒業生23名が受験し、22名が合格。

〈内訳〉

本年度卒業生が19名中18名合格。
昨年度卒業生が4名中4名合格。

合格率は、全国平均の69.3%を大きく超える95.7%と極めて優秀な成績を収め、この成績は昨年に引き続き、2年連続の快挙。

進路・就職状況について

平成23年3月 卒業生の就職状況

平成22年度の卒業生の就職状況は、日本経済はもとより世界経済の景況感の下降とともに文部科学省や厚生労働省からの発表のように厳しいものとなりました。その中で平成22年度の卒業生たちが就活という競争を繰り広げてい

たのですが、卒業生たちの頑張りもあり就職決定率は83.1%となりました。けっして高い数値とは言えませんが景気低迷の中、卒業生たちはよく健闘したと言えると思います。

卒業時に就職先が決まらなく、卒業後も就職活動が続ける方については引き続き相談を受け付けています。政府発表にもありましたように「卒業後3年間は新卒扱いにする」といったこともありますので気軽に相談に来るようお伝えください。本学ではこのことが決定されるずっと以前(10年以上前)から卒業後の相談も受け付けていましたし、中途採用の企業情報が集まったりしてきました。そのため転職相談も随時行ってきたと

いうのが実情です。また、本年3月11日に東日本を襲った大地震により内定取消などの事態が心配されましたが、本学の卒業生の中にはいまでもしたので一安心でした。

先述のように、東日本大震災により、景気回復基調にあった日本経済はまた低調なものに逆戻りしてしまいました。本学が震災に巻き込まれた企業や現地の役所は言うにおよばず、支店が被災した企業は数多くあります。中でも、自動車関連産業は部品の供給が追いつかず、休止の事態になっており、また、関東での計画停電の影響がじわじわと出てきているのはご承知の通りです。

本学に寄せられる案内の中でも特に大手企業からは、例年は4月1日から面接等の採用活動を始めるのに、本年は5月や6月から始めるといった内容の文書が送付されてきています。ここで言うのはあくまで超大手企業の採用予定

であり、東海地区の地元企業、中堅・中小企業のはほとんどは例年通り採用活動を進めています。東海地区の経済状況は、新聞・テレビの発表でご承知の通り、先行きが見えない景気低迷状態が続く模様ですが、当地区は元来企業が多いので例年と同じような採用日程になっています。

本学のキャリア形成支援・就職支援の取り組み
キャリアセンターでは1年生からのキャリア形成教育に取り組みしています。1年生、2年生で受講できる授業「キャリア・デザイン」、2年生、3年生で受講できる「インターシップ」。また、これ以外に各学部ではそれぞれの学部特性に応じた、キャリア育成関連の授業プログラムが展開されています。3年生では就職活動の準備のために6月から翌年1月の間に「進路・就職ガイダンス」を4回にわたって行ない、学生の就職活動をサポートしています。さらには「女子学生のためのガイダンス」や「金融業セミナー」など、対象や目的別の行事も行なっています。

また、公務員を狙う学生には公務員試験の直前まで、「ミニ模試(無料・参加自由)」を定期的に開催しています。景気が下降気味になると公務員受験者が増え、増えたことにより合格平均点が上がるといった状況になるのはご承知の通りです。その後の、面接

対策などは集団、個別面談ともキャリアセンターが力をいれて実施していますので参加していただければと思います。また、キャリアセンターでは学生に向けて逐次学部担当者からメールや電話を入れ、学生の状況把握や、相談に対応していますのでご承知置きください。

ご父母の皆さまには、大学卒業後の進路決定にご理解と一層のご支援をお願い申し上げます。

キャリアセンター
就職課課長
中尾 猛

平成23年度 後援会支部懇談会 全国22会場で開催

平成23年度の支部懇談会が6月4日(土)から7月3日(日)まで全国22会場で行なわれます。当日は後援会本部役員をはじめ、大学から教務・学生・就職の担当職員が出席して、ご子息の成績、クラブ活動、就職など学生生活全般にかかわる相談を承ります。

当日は、既にご送付いたしましたご子息の成績表を必ずご持参ください。また、次の8会場においては本学教授の講演も実施いたします。万障繰り合わせご出席下さいますようお願い申し上げます。

支部懇談会講演会
○6月11日(土) 静岡
大澤俊彦 心身科学部長
「健康長寿と食生活」
○6月12日(日) 春日井
竹市良成 教務部長
「教育の今」
○6月19日(日) 四日市
植 彰 薬学部長
「薬物乱用」
○6月25日(土) 名古屋(日進)
大澤俊彦 心身科学部長
「健康長寿と食生活」
○6月26日(日) 名古屋(梅元)
田中貴信 歯学部部長
「インフュント治療への磁石の応用」
○6月26日(日) 名古屋(梅元)
梅村雅之 薬学部講師
「医療における病院薬剤師の役割」
○7月2日(土) 岐阜
稲垣正巳 教養部長
「欧州連合とグローバル化」
○7月3日(日) 浜松
服部 朗 法学部長
「少年法という法律」

平成23年度 支部懇談会会場一覧

月/日	開催地	会 場 名	所 在 地	大学代表者
6. 4(土)	熊本	熊本ワシントンプラザ	熊本市下通2-3-10	向経営学部長
6. 4(土)	香川	全日空ホテルクレメント高松	高松市浜ノ町1番1号	酒井キャリアセンター部長
6. 4(土)	鹿児島	城山観光ホテル	鹿児島市新照院町41-1	柴田(光)大学事務局次長
6. 5(日)	福岡	ホテル日航福岡	福岡市博多区博多駅前2-18-25	向経営学部長
6. 5(日)	愛媛	ホテル茶波瑠	松山市道後湯月町4-4	酒井キャリアセンター部長
6. 5(日)	長野	松本東急イン	松本市深志1-3-21	横総合政策学部長
6.11(土)	福井	ホテルリバービューアケボノ	福井市中央3-10-12	黒神学生部長
6.11(土)	広島	リーガロイヤルホテル広島	広島市中区基町6-78	安藤文学部長
6.11(土)	静岡	サンパレスホテル	静岡市駿河区南町11-29	大澤心身科学部長
6.12(日)	富山	富山電気ビルディング	富山市桜橋通り3-1	黒神学生部長
6.12(日)	岡山	岡山プラザホテル	岡山市浜2-3-12	安藤文学部長
6.12(日)	関西(大阪・奈良以外)	ホテルラフォーレ新大阪	大阪市淀川区宮原1-2-70	引田入試センター部長
6.12(日)	春日井	ホテルグランドティアラ春日井	春日井市東野新町2-4-5	竹市教務部長
6.18(土)	鳥取	米子全日空ホテル	米子市久米町53-2	稲垣教養部長
6.19(日)	関西(京都・奈良のみ)	ホテルグランヴィア京都	京都市下京区烏丸通堀小路下る京都駅ビル内	田中歯学部部長
6.19(日)	東京	八重洲富士屋ホテル	東京都中央区八重洲2-9-1	脇田商学部部長
6.19(日)	高山	高山グリーンホテル	高山市西之一色町2-180	横総合政策学部長
6.19(日)	四日市	四日市都ホテル	四日市市安島1-3-38	植薬学部長
6.25(土)	名古屋(日進)	日進学舎	日進市岩崎町阿良池12	大澤心身科学部長
6.26(日)	名古屋(梅元)	梅元学舎	名古屋市中区梅元町1-100	田中歯学部部長 植薬学部長 向井歯科衛生学科長
7. 2(土)	岐阜	岐阜グランドホテル	岐阜市長良648番地	稲垣教養部長
7. 3(日)	浜松	オークラアクティホテル浜松	浜松市板屋町111-2	服部法学部長

今光 廣一 本学名誉教授 フィルキヤロル賞 受賞

本学の名譽教授である今光廣一教授が、このたび Society for Advancement of Management (略称SAM) において、フィルキヤロル賞を受賞され、3月31日より4月3日まで米国フロリダ州オーランド市のローゼンブラザホテルにて開催された授賞式に出席し、受賞スピーチを行った。

日本からの受賞者は今光教授が最初の受賞者で、過去の受賞者にはポッドラッガー教授、GM会長のアルフレッド・スローン氏など、そうそうたる面々がそろった。こうした受賞者の中で今光教授が受賞されたことは大変名誉なことであり、今光教授の研究の成果が評価された証でもある。

お見舞いとお礼の状を
2011年3月10日

事ながらご休めください。またその節には色々とお見舞い頂き、有り難く厚く御礼申し上げます。

この度、東日本大震災が発生し、史上稀な大災害となり、多くの人命が失われました。ここに一日でも早い復興を願うとともに犠牲となられた方々の御冥福をお祈りいたします。私事ですが、昨年12月に脊柱管骨折と脊柱管狭窄の合併症治療のため手術し、そのため研究会等実施につきましましてはご不便、ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。その後順調に身体も回復に向かっておりますので他

さらに1936年に Society for Advancement of Management (略称SAM) と名称変更され今日に至っています。日本チャプターは1925年(大正14年)に設立され、現在豊田章一郎豊田自動車(株)名誉会長はじめ財界の有力者が会員として名を連ねています。SAM国際賞は、これまでに、日本から1968年に野田信夫氏(成蹊大学元学長)をはじめとして15名の方々が受賞されており、海外の受賞者として、1967年にマコドラ



愛知学院大学名誉教授 今光廣一

第1回 春のオープンキャンパス開催

受験生・高校生に愛知学院大学を身近に感じてもらう「オープンキャンパス」が、4月17日(日)に今年度最初の第1回目として開催された。

当日は1千2百名を超す高校生・保護者の方が来校し、熱心に教員・入試スタッフなどに質問する姿など、本学を目指す方々にとって有意義な1日となった。

今後の予定は、7月30日(土)、31日(日)に日進キャンパス・補元キャンパスそれぞれ行われる。昨年は8500名を超える高校生が来校。

また、今年度も歯学部・薬学部・短期大学部がある補元キャンパスでは、補元祭に合わせ、6月11日(土)、12日(日)にも実施される。

詳細については本学ホームページ、若しくは入試センターまで問合せのこと。

薬学部 川島嘉明教授 製剤機械技術研究会 「仲井賞」を受賞

本学薬学部の川島嘉明教授(製剤学講座)が、この度、製剤機械技術研究会・仲井賞を平成23年4月18日に授与されること発表された。

仲井賞は製剤機械技術の進歩、発展に貢献した功績に対して贈呈される最高賞。

なお、本年10月に開催される平成23年度大会において表彰式ならびに特別講演が行われる予定。

製剤機械技術研究会は医薬品製剤の製造に関して、ハードとソフトの両面から幅広い業種の専門知識と技術の融合が期待される。

平成22年度 日本歯科医学学会会長賞 野口俊英前歯学部部長が受賞

本学前歯学部部長である野口俊英教授(歯学部歯周病学講座)が、この度、平成22年度日本歯科医学学会会長賞(研究部門)を平成23年1月21日に受賞した。

日本歯科医学学会会長賞の研究部門は、研究や学会活動を通じて歯科医学の発展に寄与したことに對して贈呈されるもの。

日本歯科医学学会は、日本歯科医師会の中に組織化された歯科界で最大規模の学術団体であり、現在21の専門分科会

(財)九州経済調査協会への 学生派遣研修に関する 覚書締結

平成23年3月17日、本学商学部と(財)九州経済調査協会は、学生派遣研修に関する覚書を結んだ。

同協会(www.keicci.jp)は、文部科学省所管の学術機関であり、地域経済に関する調査研究を行うシンクタンクで、地域経済に関する調査研究を行う実践の場を経験することにより、大学で学んだ知識を実践に発展させ、地域経済の担い手となる人材を育成している。

同協会では、これまでに立命館大学や九州大学などから

流通科学研究所主催 講演会開催

5月19日(木) 13時30分より、学院会館大ホールにて、第1回流通科学研究所講演会が開催された。

講師に愛知学院大学法学部のOBで愛知銀行常務取締役の伊藤和夫氏を迎え、「地域金融機関と私」という演題で、当初想定以上の聴講希望者が集まり、座席が足りなくなるほどの大盛況であった。

講演では地域金融機関の社会的役割や求める人材、企業人としての心構えなど、公私にわたる体験談を交えつつ大変貴重な話がなされた。不易流行への対応、企業人に求められる資質、採用試験の裏話など今後の就職活動に有益な話も多く、参加した学生の多くがメモをとるなど熱心に聞き入っていた。



名誉教授称号記授与式が実施される

本学教授会にて名誉教授授与が決定した3名の先生への名誉教授授与式が、4月1日(金)15時30分より日進学舎学長室、4日(月)16時より楠元学舎法人本部大会議室において厳粛に行われた。

当日は、磯村孝志商学部客員教授、齊藤晃経営学部教授、花村肇歯学部教授に大野栄人学長より名誉教授称号記が授与され、授与式が無事終了した。

今後の各先生方の益々のご活躍が期待されます。



本学柔道部 東海学生柔道夏季優勝大会 13年ぶり9回目の優勝。

去る5月8日(日)、愛知県武道館にて行われた第58回東海学生柔道夏季優勝大会において、本学柔道部は、準決勝戦で静岡産業大学と対戦し4対2。決勝戦では愛知大学と対戦し3対1で勝ち、13年ぶりに優勝旗が本学に帰ってきた。

また、優秀選手賞に法律学科3年岡本健吾、健康科学科1年渡邊理也が選ばれた。

なお、全国大会は6月24日(金)6月26日(日)。



東日本大震災による 災害のお見舞金及び学納金免除の 特別措置について

この度の東日本大震災において被災された皆様、心からお見舞い申し上げます。

し出下さい。

一日も早い復興と皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

【対象者】

愛知学院大学、愛知学院大学後援会では、被災された在学者に対し、経済的支援を図る目的でお見舞金及び学納金免除の特別措置制度があります。

下記に該当する方で希望される場合は、学生課までお申

愛知学院大学 学生課
電話：0561-73-1111(代)

本学硬式野球部 愛知大学野球春季リーグ 3季連続42度目の優勝

本学硬式野球部が愛知大学野球春季リーグにて3季連続42度目の優勝を決めた。今回の春季リーグは勝ち点5の完全優勝で決めた。

6月7日より開幕する全日本大学選手権(神宮球場など)に出場する。

硬式野球部の全国大会での活躍が期待される。

(写真提供：勝シエム・シー)



ベビーカーや車椅子にも 譲り合いの心を

道路は公共の場です。バス停等でも思いやりを持った行動をしましょう。



学生課

2012年度 愛知学院大学入試日程

アドミッション・オフィス方式による入試				
	第1次選考 出願期間	第1次 合格発表日	第2次選考 出願期間	第2次選考日 合格発表日
文学部 心身科学部 商学部 経営学部 法学部 総合政策学部 歯学部 短期大学部	2011年 9月20日(火) 9月29日(木)	10月8日(土)	10月11日(火) 10月13日(木)	10月16日(日) (小論文・面接) 10月22日(土)
特別入試				
	出願期間	試験日	合格発表日	
推薦 3学年編入				
3学年編入 2学年編入 薬学部・歯学部第2学年編入 学士 帰国生徒 社会人	2011年9月5日(月)~9月15日(木)	9月25日(日)	10月1日(土)	
再入(Ⅰ期)				
再入(Ⅱ期)	2012年2月16日(木)~2月29日(木)	3月8日(木)	3月16日(金)	
外国人留学生 指定校推薦	2011年11月7日(月)~11月15日(火)	11月27日(日)	12月3日(土)	
Ⅰ期(国内・国外)				
Ⅱ期(国内のみ)	2012年2月1日(水)~2月9日(木)	2月17日(金)	3月1日(木)	
留學生別科 Ⅰ期(国内・国外)	2011年11月7日(月)~11月15日(火)	11月27日(日)	12月3日(土)	
Ⅱ期(国内のみ)	2012年2月1日(水)~2月9日(木)	2月17日(金)	3月1日(木)	

【注】入学者決定者で3月31日(土)正午までに入学辞退を本学入試センターに提出したときは、入学金以外を返還します。

一般入試			
	出願期間	試験日	合格発表日
指定校制 公募制A(専願) 公募制B(併願可) (薬学部・歯学部・短期大学部は実施しない) 専門学科推薦 (歯学部・総合政策学部・総合政策学部で実施) スポーツⅠ期 スポーツⅡ期	2011年11月1日(火)~11月10日(木) 11月10日(木)のみ持参可	11月19日(土)	11月30日(水)
大学入試センター試験	試験日 → 2012年1月14日(土)・15日(日)		
前期 文学部 心身科学部 商学部 経営学部 法学部 総合政策学部 薬学部 歯学部 短期大学部	2012年1月6日(金)~1月20日(金) 1月20日(金)のみ持参可	2月1日(水)~4日(土) 【注1】 2月3日(金) 2月10日(金) 2月11日(水)~2日(木)【注1】 2月3日(金)~4日(土)【注1】	2月16日(木) 2月10日(金)
後期 全学部全学科(個別配点方式) (薬学部・歯学部・短期大学部は実施しない) 前期M (薬学部・商学部・短期大学部は実施しない) 「センター試験」 利用試験Ⅰ期 前期M 文学部・心身科学部 商学部・総合政策学部 総合政策学部 薬学部・歯学部 短期大学部	2012年1月6日(金)~1月23日(月) 1月23日(月)のみ持参可	個別試験は実施しない 2月3日(金)	各学部学科の 前期試験A 発表日と同日
中期試験 (個別配点方式) (薬学部・歯学部は1科目型で実施) (短期大学部は1科目型で実施)	2012年1月6日(金)~2月3日(金) 2月3日(金)のみ持参可	2月14日(火)	2月24日(金)
後期試験 (短期大学部は1科目型で実施)	2012年2月16日(木)~2月29日(木) 2月29日(木)のみ持参可	3月8日(木)	
「センター試験」 利用試験Ⅱ期 前期M 文学部・心身科学部 商学部・総合政策学部 総合政策学部 薬学部 歯学部	2012年2月16日(木)~3月2日(金) 3月2日(金)のみ持参可	個別試験は実施しない 3月8日(木)	3月16日(金)

【注1】試験日は出願時に選択してください。試験日が異なる場合は同学科および他学科を併願することができません。